

「2005年日本国際博覧会」

21世紀の「モビリティの夢、楽しさ、感動」をテーマにトヨタグループ館を出展

2005年3月、約半年間の会期で「自然の叡智」をテーマとする「2005年日本国際博覧会」（愛称：愛・地球博）が愛知県で開幕しました。当社はグループ企業15社とともに、「21世紀のモビリティの夢、楽しさ、感動」をテーマにトヨタグループ館を出展し、トヨタの先進技術の一端をパフォーマンスショーや出展物を通して紹介しています。万博の来場者数は、7月4日に1,000万人に達し、トヨタグループ館も盛況を博しています。



トヨタグループ館

メインシアターでは、トヨタ・パートナーロボットによって構成される楽団が、バンド演奏やラップを披露。さらに、一人乗りの未来コンセプトビークル

「i-unit（アイユニット）」や搭乗歩行型ロボット「i-foot（アイフット）」が登場し、華麗なモビリティ・パフォーマンス・ショーを展開しています。このショーでは、21世紀の理想的モビリティ社会や、高齢者や障害者の方々が自立して移動できる社会の実現に向けた、未来技術・未来ビークルの可能性を紹介しています。いずれのパフォーマンスも期間中スムーズに稼働・運営され、その技術的信頼性の高さもアピールしています。

またパビリオンは、「地球循環型パビリオン」を基本コンセプトに建設、運営されています。建物は解体・リユースを前提とする鉄骨構造体を採用したほか、外壁には古紙再生紙の壁材を、内装の一部にはケナフ材などを採用しました。博覧会終了後は解体・分別回収を徹底し、建設廃棄物をゼロとする計画です。さらにパビリオンで消費するエネルギーについては、相当分の電力を会場外に建設された風力発電機で発電し、トータルでCO₂の発生もゼロとする計画です。



次世代交通システム「IMTS」

このほかトヨタは、2つの会場間の移動用に高圧水素を燃料とした燃料電池とハイブリッド技術を組み合わせた燃料電池ハイブリッドバスを、また会場内の移動用に次世代交通システム「IMTS（インテリジェント・マルチモード・トランジット・システム）」を提供しています。自動運転技術が組み込まれた「IMTS」は、CNG（圧縮天然ガス）を動力源として専用道では無人自動隊列走行、一般道はマニュアルで走行する新交通システムです。

トヨタグループの提案が21世紀の新しい価値観やライフスタイルを生み出すきっかけとなり、技術の輪が広がっていくことを期待しています。



未来コンセプトビークル「i-unit」



パフォーマンスショー